施政方針から

新たな局面を迎える津市のまちづくり

～市民の笑顔があふれ幸せに暮らせる県都津市の創造に向けて～

２月20日、令和２年第１回津市議会定例会の開催に当たり、前葉泰幸市長が施政方針を述べました。今号では、その主な内容を掲載します。なお、施政方針の全文については、津市ホームページでご覧いただけます。

津市　施政方針

市町村合併から15年目

今年は、津市が平成18年１月に**市町村合併を行ってからちょうど15年目の年**に当たります。この市町村合併は、市町村の形そのものを変えてしまうという大きな変革でありました。

明治、昭和の合併に続き、国が手厚い財政支援の下、積極的に進めてきた、いわゆる平成の大合併の流れの中で、10の市町村が心を一つにして、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるために合併が必要であるとした志高い決断によって成し遂げたものです。

施政方針を述べる前葉泰幸市長

15年目を迎えた今、振り返りますと、合併時には「合併に期待することは実現するのか」「合併して本当に良かったのか」という声も確かにありました。しかしながら、国の財政的な優遇措置にも後押しされ、合併後の津市は、健全な財政を維持しつつ、合併時に約束されていたことを果たすべく全力で突き進みながら、市民の望みや願いを実現し、行政の効率化を進めることができました。

そして今、合併時に10市町村が思い描いたまちの姿は、６月にオープンする久居アルスプラザという最後の大型事業の完成をもって結実します。これまでひたむきにまちづくりを進めてきた結果、地方分権の担い手としてふさわしい市政運営を可能とする基礎自治体となるという合併の目的は達成されました。

所期の目的を果たした今、津市は新たな**局面**を迎えようとしています。それは、**人口28万人の県庁所在都市としての強みを発揮し、市民の豊かな暮らしや力強い経済を築き上げ、風格ある県都として堂々と羽ばたいていこうとする、そういう局面**です。もちろんそこには、少子高齢化を伴う人口減少が進む中で、子ども、教育、福祉、産業、地域経済など、さまざまな分野での新たな課題やニーズがあります。

しかし、私たちはそれを乗り越え、解決しながら、**市民の笑顔があふれ幸せに暮らせる県都津市の創造に向けて、大きな一歩を踏み出します。**その歩みは、行財政改革による引き締まった筋肉質の体でもって、世の中のさまざまな課題や動きをしなやかに受け止め、現状に満足することなく、市民のために一歩先行く市政を2,500人の全職員が創意工夫しながらスピード感をもって実行することで確かなものとなります。合併という変革に終わりを告げ、まさに**本当の意味での基礎自治体としての地力、つまり市政運営の真価が問われる**ことになります。